

第56回 中部化学関係学協会支部連合秋季大会
(中化連報告)

中部化学関係学協会支部連合秋季大会(中化連)は、中部地区の化学関係学協会支部二十数団体が合同で開催する学会であり、通常の限定された分野の学会とは異なり、広い分野からの参加者を募ることで学際的な交流を促すことにも寄与しています。第56回中化連は岐阜大学が担当し、2025年11月8日(土)と9日(日)に岐阜大学柳戸キャンパス内で開催しました。私事ながら、筆者は高分子や液晶といったソフトマターの分野の研究者で、液晶側の主要学会である液晶学会では2018年に討論会実行委員長を務め、また学内業務では自身3回目のコース長を2023年に務めましたから、退職年度の今年度は自身の身の回りの片付けのみと考えておりました。ところが、何事も若い人にチャンスと活躍をというこの時代にあって、これだけは敬老よろしく、コース最年長の筆者が実行委員長を引き受けることになりました。

むろん1人でできるわけありませんから、開催にあたって岐阜大学で化学に携わっておられる先生方に実行委員をお願いしましたところ、60名を超える先生方にご参加、ご協力いただけることになりました。実際、基礎分野の有機化学、無機化学から実用分野の生命化学、エネルギー科学に至る多彩な研究分野の顔ぶれが揃い、中化連の幅広い分野に対応できる布陣となりました。池田将先生、植村一広先生、満倉浩一先生には庶務幹事

をお引き受けいただきました。岐阜大学が前回担当しましたのは8年前であり、そのときと随分と状況が変わっていましたが、これも前年に中化連を開催された名古屋工業大学の古谷祐詞先生からノウハウを丁寧に教えていただき、3月から3回の実行委員会を経て当日の開催に至っています。

看板となる総合講演は、日本化学会会長の丸岡啓二先生(京都大学大学院薬学研究所)による「有機触媒化学の最前線」と岐阜大学の村井利昭先生による「村井君のブログ:基礎化学から環境科学に挑む」でした。最高峰の有機化学の内容を、専門外の聴衆にもわかりやすく、若い方々への激励と軽妙な冗句を交えてご講演いただきました。演題数は総合講演も含めて375演題、参加登録者は600名(一般264名、学生336名)と、おかげで前回並みの盛況ぶりとなりました。運営のほとんどすべてを池田先生に切り盛りしていただき、実行委員長として筆者の唯一の心配は、企業からの助成金の集まり具合でした。例のトランプ関税騒ぎで出だしは不調でしたが、これも入澤寿平先生の心強い活動により、85件もの支援(後援、寄付および広告掲載)をいただくことができました。その結果、単年度でも赤字を計上する心配もなくなり、また宮本学先生の取りまとめにより、ご支援いただいた企業の広告ページを含むオールカラーのプログラム集を發



丸岡日本化学会会長による総合講演

行することができました。

懇親会に関しては、前年の名古屋工業大学近くのビール園でのクラフトビール飲み放題というような魅力的な企画は提供できませんでしたが、それでも142名の方々にご参加いただきました。この交流からきっと新しい共同研究が生み出されるものと期待しております。

盛会となりました今回の開催にあたり、実行委員の皆様、とりわけ池田先生、日本化学会東海支部長の森田靖先生、そして中部化学関係学協会支部連合協議会事務局の皆様、特に伊藤春様には多大なご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。個人的には、年始めの伊奈波神社の大吉おみくじの「欲なければ人間関係も丸く、すべての条件に恵まれる」を体現した大会となりました。次年度以降もますます盛況で実り多い中化連になることをお祈り申し上げます。

[沓水祥一(岐阜大学)]

© 2026 The Chemical Society of Japan